～子ども図書館オープン～

ぼくたちを子ども図書館につれてって

子ども図書館が3月25日に市民交流プラザ2階にオープンしました。子ども図書館は、絵本や児童用図書の貸し出しを行う子どもと本のふれあいの場であるとともに、子ども、親が気軽に集い、ふれあいながら子育てに関する相談や情報交換ができる子育て支援施設です。

今回の特集では、幼少期における読書の必要性や施設の概要についてご紹介します。

『子どもの読書活動の意義と子ども図書館の役割』

全国学校図書館協議会が毎年実施する読書調査によると、昨年5月に子どもが読んだ書籍の数は小学生が11・4冊、中学生が3・9冊、高校生が1・6冊となっています。

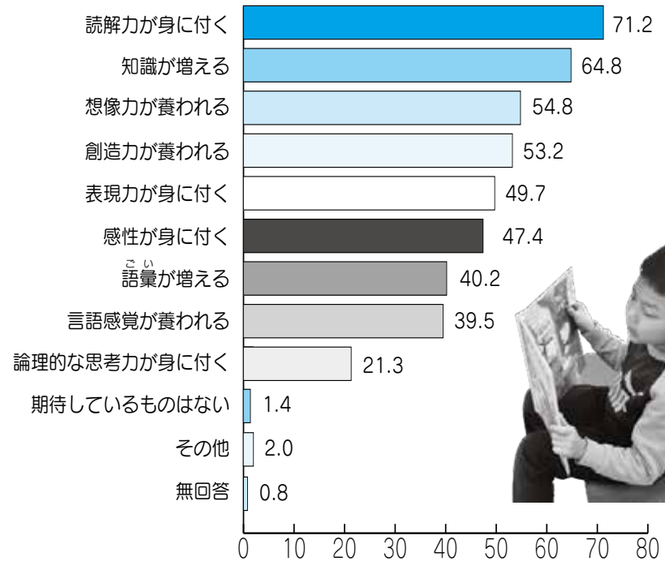
1995年に行われた同調査では小学生が5・4冊、中学生が1・8冊、高校生が1・2冊となっており、小中学生では2倍近く増加していることから、子どもの読書に高い教育効果を望む保護者が増えていることがうかがえます。

また、文部科学省が平成16年度に実施した調査では、保護者が子どもの読書に対して期待することに『読解力が身に付く』『知識が増える』といったものが挙げられています。

このように、子どもにとっての読書は、感性を磨き、表現力・創造力を高め、他人への思いやりと豊かな心を育むために大切な活動といえます。

子ども図書館では、子どもが自ら興味のある本を探せるよう、1メートル程度の低い書架を採用しているほか、子どもの読書活動をサポートできるよう、司書が配置されています。専門の司書を配置することで、レファレンス（調べ物のお手伝い）サービスが向上され、子どもの読書活動の更なる推進が期待されます。

平成16年度 図書館の情報拠点化に関する調査研究
「子どもの読書に対して期待すること」



『体験コーナーの充実』

子ども図書館では、本の貸し出しのほか、乳幼児を対象とした親子のふれあいあそび、読み聞かせや映写会、ワークショップなどを行います。

絵本の読み聞かせには様々な効果があると言われています。ものごとを楽しいと思える心、好きなものを見いだせる心を育むほか、集団の場合、他の子どもに刺激され、一緒に楽しみ、理解しようという積極性が育まれます。

また、図画や工作などの創作活動を通じて、子ども達が自由な発想で自己表現出来るよう、ワークショップを開催します。

『安全性への配慮とアットホームな空間』

にこにこひろば、おはなしコーナー、えほんのひろば、ふれあいひろばは、子どもの安全性に配慮したクッション性のあるフロアとし、靴を脱いで本を選んだり、ふれあい、交流のできるコーナーとなっています。

また、可愛らしいイラストの案内板や木のぬくもりを感じられる書架の配置、子どもに人気のキラリンが所々にあしらわれるなど、アットホームな空間のなかで、子ども同士、保護者同士の交流を深めることができます。

『子ども向けコミック単行本の配置』

子ども図書館では子ども向けコミックを配置しています。

コミックと言えば子どもへの悪影響を考えてしまいがちです。しかし、コミックも本と同様、様々な可能性を子どもに示すツールであり、様々なストーリーを楽しめます。

コミックの主人公に憧れてその世界を目指し、国内外で活躍する人も少なくありません。また、ともだちとの共通の話題作りのきっかけや、本を読むことが苦手な子ども、図書館に通うことで図書館の雰囲気を知り、本への興味を持つきっかけとなることが期待されます。

『スタッフからのメッセージ』

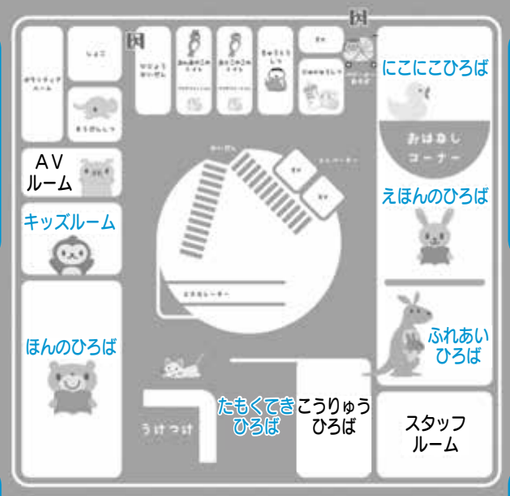
たくさんの本に囲まれた子ども図書館。その本たちが、『おいで、おいで、友だちになろう！』と皆さんを待っています。さあ、本を手に取り開きましょう。そこには、心踊る物語、喜びや悲しみなど、新しい発見が皆さんを待っています。

子ども図書館では、楽しい絵本や児童図書はもちろん、乳児がおもちゃで遊ぶことができる部屋があり、小さいお子さんを対象としたふれあいあそびなどを企画しています。

素敵な本との出会いの場、ご家族とのふれあいの場、子育て情報の交換や交流の場として子ども図書館を利用して頂ければと思います。

スタッフ一同、皆さんが本と仲良くなるお手伝いをしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

工作などのワークショップを行います。



小さなお子さんのための部屋です。保育士が配置されており、子育てに関する相談もできます。

小学生・中学生向けの本が配架されています。

『たもくてきひろば』は、本を読んだり、調べものをしたりする場所です。

『えほんのひろば』には、絵本、紙芝居、大型絵本が配架されています。

『ふれあいひろば』は、保護者同士や子ども同士の交流や情報交換の場所です。

子ども図書館配置図（市民交流プラザ２階）